2026.10.19　日本財団「47プロジェクト情報共有会議」

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

人権尊重型被災者支援システムの構築
及び地域受援体制整備事業

認定特定非営利活動法人　長野県NPOセンター
プロジェクトマネージャー/災害支援事業統括　　古越　武彦

人権尊重型被災者支援システムの構築及び地域受援体制整備事業

事業1：人権尊重型被災者支援システムの構築

- 支援標準化（スタンダード）
- 分野別支援集約化（ガバナンス）
- 分野別検討（食支援、ジェンダー、要配慮者支援等）

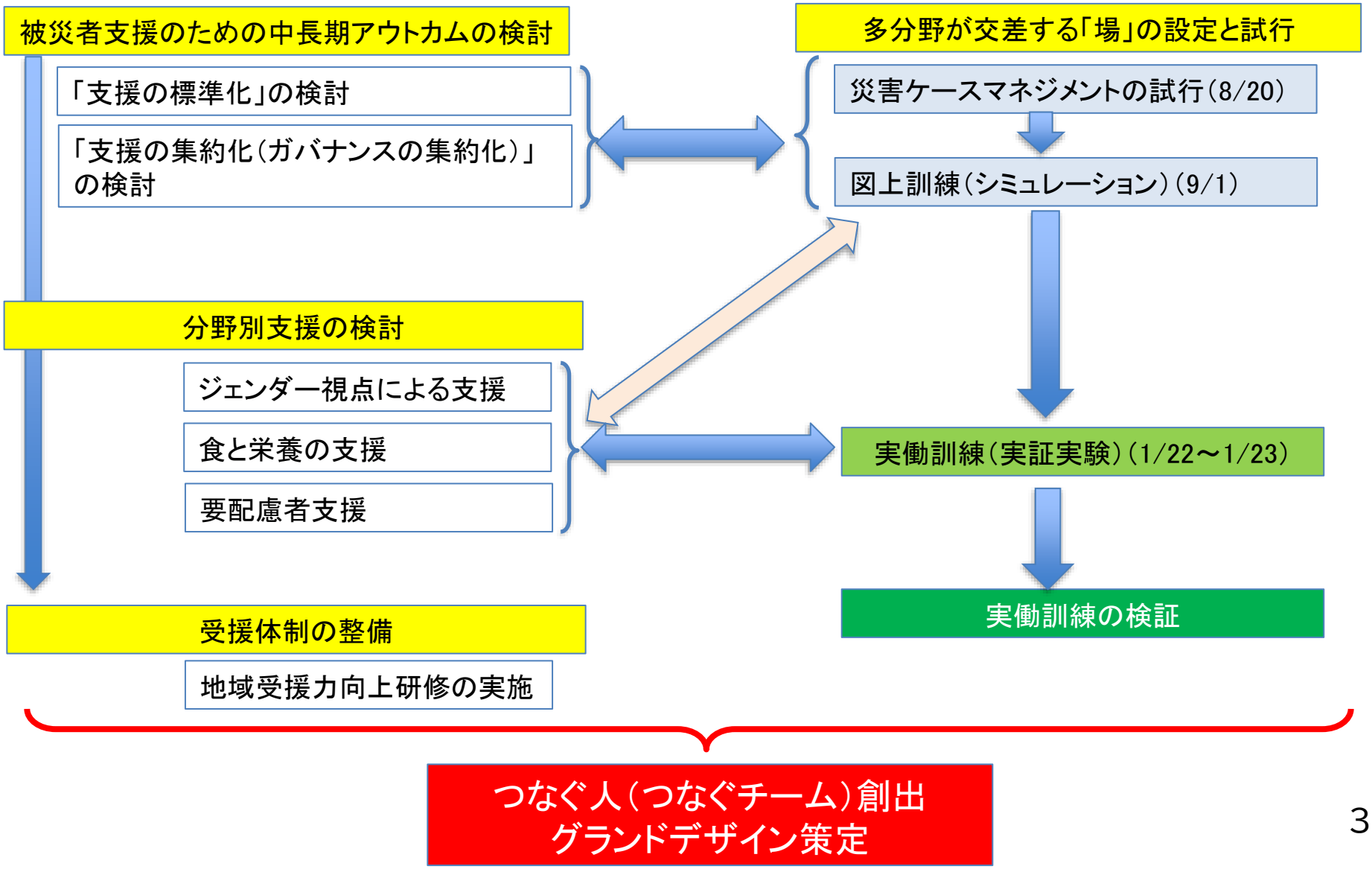
事業2：地域の受援体制の整備

- 推進体制整備（上伊那災害時支援ネットワークへの伴走支援）
- 地域受援力向上研修の実施
- 減災・復旧戦略策定

事業3：多分野が交差する『場』での実践

- 図上訓練・実働訓練

2026年度 『つなぐ人』創出プログラム　全体像



図上訓練の実施（2026年9月1日）

１　日時

令和８年９月１日（火）13：30～16：30

２　場所

長野市「もんぜんぷら座」304会議室

３　主催・協力

（１）主催

長野県災害時支援ネットワーク(N-NET)

（２）協力

長野県、長野県社会福祉協議会

（３）主な訓練参加者等

①日本財団事業関係者（検討委員会委員など）

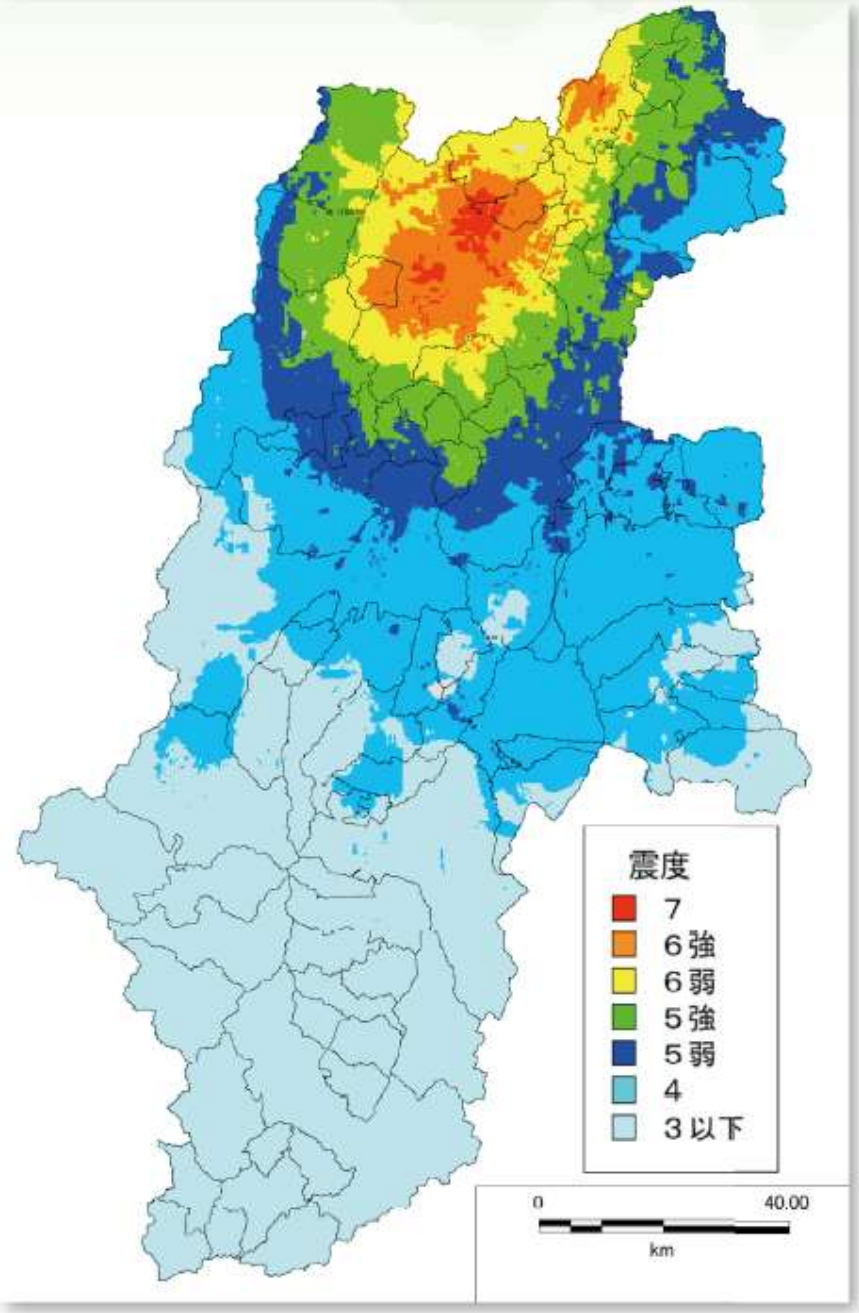
②N-NET構成団体等（関係団体・者含む）

③長野県社会福祉協議会

④企業など　　計　約30名

全体の進行

時　間	支援者
12:30	主催者集合・訓練準備
13:00	訓練参加者入室
13:30～13:40 （10分）	主催者挨拶 日本財団事業及び訓練目的等について説明
13:40～16:20 （160分）	訓練（ワークショップ） ①災害・被害想定の共有（10分） ②第１部（40分）※アイスブレイク5分含む ③第２部（40分）※アイスブレイク5分含む ③第３部（40分） ④振り返り（20分） ※途中で休憩10分
16:20～16:30 （10分）	講評
16:30	終了



A．長野盆地西縁断層帯の地震

断層の特徴



長野盆地西縁断層帯は、長野県の飯山市北方から長野市南方にかけて、長野盆地の西縁に沿って延びています。全体として長さは約58kmで、西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

想定される被害の特徴

死者数：約2,200～2,400人
全壊・焼失建物数：約30,000～41,000棟
長野市に、特に大きな被害が集中して発生するほか、飯山市や千曲市等でも被害が発生すると想定しています。

実働訓練の被害想定

【地震の想定】
・8月29日（土）5:47に、長野県北部を震源とした直下型の地震が発生
・マグニチュード7.8（令和6年能登半島地震の2倍） 県内最大震度7
・気象庁は「令和8年（2026年）長野盆地地震」と名称を定めた
・長野県災害時支援ネットワークは、発災直後から活動を開始
・8月31日（月）に支援拠点を設置、翌1日（火）から支援活動を開始



【9月1日（火）の状況】
・長野市を中心に広範囲で甚大な被害が発生
・今もなお、懸命な救助・救命活動が続けられている。
・指定避難所は、既に満杯の状況
・非指定の避難所が数多く開設
・地震（余震）がひどく、車中泊避難者も数多い模様
・指定避難所以外の被災者の把握は出来ていない（出来ない）。
・液状化、土砂崩れなどの影響により、被災地への移動が困難
・山間地域では、土砂災害も起きており、家屋への被害も起きている。
・広い範囲で、停電、断水が起きている模様
・長野県の震度5弱以上の全市町村に災害救助法が適用されている。
・住家の被害棟数はどれだけになるのか、よくわからない状況
・高速道路は、緊急車両（災害対応用車両を含む）のみ通過可能

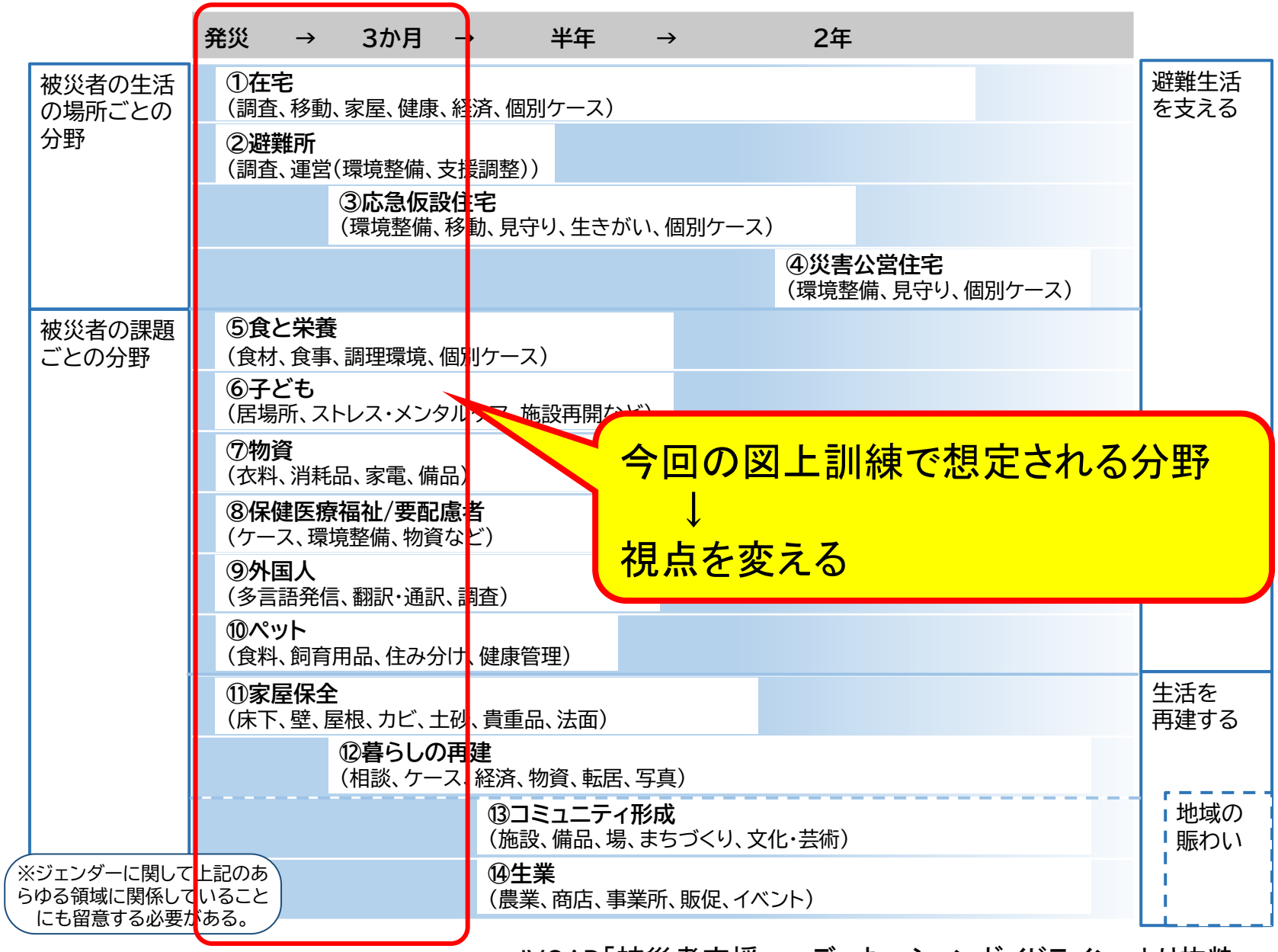




ワークショップの内容

	内容
災害・被害想定の共有	共通認識化 ①災害情報 ②被害情報 ③被害予想
第1部 発災3日目 ※自由配置	支援活動初期で混乱が生じている状況を想定 ①状況把握：被災者が置かれている生活環境等を予想 ②将来予想：どのような支援が求められるかを検討 ③支援計画：支援を実施するために必要な条件・環境などを検討
第2部 発災7日目 ※分野別配置	分野別の支援活動が開始されている状況を想定 ①状況把握：被災者が置かれている生活環境等を予想 ②将来予想：どのような支援が求められるかを検討 ③支援計画：支援を実施するために必要な条件・環境などを検討
第3部 発災7日目 ※ケース検討	AIを用いたケースを設定・検討し、ガバナンスの集約化を目指す ①分野別でどのような支援を行うかを検討 ②分野別支援を集約

被災者支援の14分野＋その他（14分野に属さない分野）＝15分野



JVOAD「被災者支援コーディネーションガイドライン」より抜粋

第1部　発災3日目

2026年度実働訓練（実証実験）のイメージ

第1日目：発災3日目を想定（拠点は設置済み）

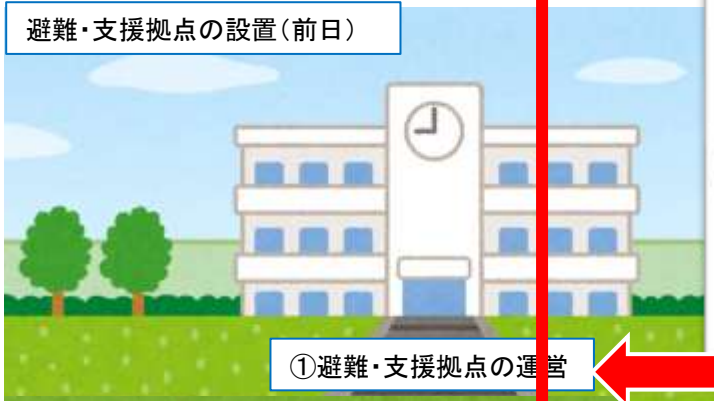
第1部では
ここを検討

凡例
：支援の流れ
：医療・福祉の流れ

「つなぐチーム」



避難・支援拠点の設置（前日）



①避難・支援拠点の運営

ネットワーク
（限定した支援者）

②避難者への対応



⑤医療・⑥福祉



⑦被災地1.5次避難所
（福祉避難所）



④指定避難所外避難者への支援



③近隣の指定避難所への支援



グループ番号：

今は、災害発生から3日目です。

	どのような困りごと（課題）があると思いますか？ （個人で考える）	どのような支援が必要ですか？ （グループで考える）
①指定避難所		
②指定避難所以外の 避難所 （公民館、集会場など）		
③在宅、車中泊、テント		

グループ番号：

今は、災害発生から3日目です。

	どのような困りごと（課題）があると思いますか？ （個人で考える）	どのような支援が必要ですか？ （グループで考える）
①指定避難所		
②指定避難所以外の 避難所 （公民館、集会場など）		
③在宅、車中泊、テント		

グループ番号：

今は、災害発生から3日目です。

	どのような困りごと（課題）があると思いますか？ （個人で考える）	どのような支援が必要ですか？ （グループで考える）
①指定避難所		
②指定避難所以外の 避難所 （公民館、集会場など）		
③在宅、車中泊、テント		

第2部　発災7日目

全体の目標
「災害関連死を出させない」
「早期の生活再建に繋げる」

2026年度実働訓練（実証実験）のイメージ

第2日目：発災7日目を想定

第2部では
ここを検討

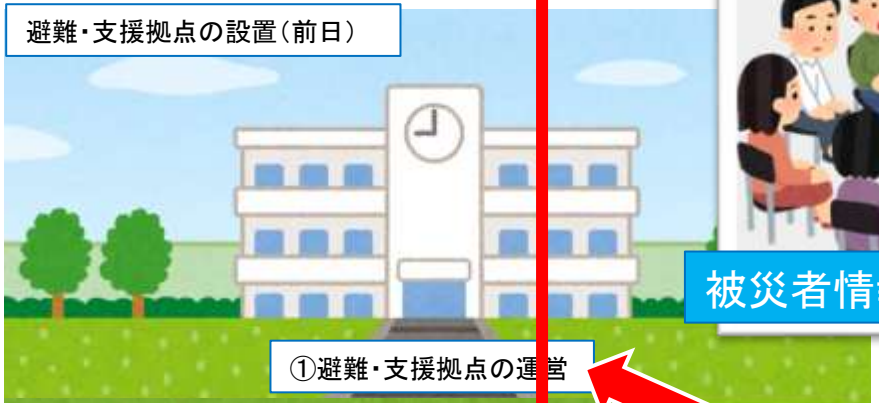
凡例
：支援の流れ
：福祉の流れ

「つなぐチーム」



被災者情報の把握・共有

避難・支援拠点の設置（前日）



①避難・支援拠点の運営

②避難者への対応



ネットワーク
（情報共有会議）

③指定避難所外避難者への支援



③近隣の指定避難所への支援





⑤被災地1.5次避難所
（福祉避難所）

グループ番号：

今は、災害発生から7日目です。

	どのような状況になっていることが理想ですか？	理想的な状況にするために、何をしますか？ ※「いつまでに」を意識する
①指定避難所		
②指定避難所以外の 避難所 （公民館、集会場など）		
③在宅、車中泊、テント		

グループ番号：

今は、災害発生から7日目です。

	どのような状況になっていることが理想ですか？	理想的な状況にするために、何をしますか？ ※「いつまでに」を意識する
①指定避難所		
②指定避難所以外の 避難所 （公民館、集会場など）		
③在宅、車中泊、テント		

グループ番号：

今は、災害発生から7日目です。

	どのような状況になっていることが理想ですか？	理想的な状況にするために、何をしますか？ ※「いつまでに」を意識する
①指定避難所		
②指定避難所以外の 避難所 （公民館、集会場など）		
③在宅、車中泊、テント		

第3部　発災7日目

災害ケースマネジメント






グループ番号 8
今は、災害発生から3日目です。
どのような困りごと（課題）があると思いますか？
グループ番号 8
今は、災害発生から7日目です。
どのような状況に
ことが理想ですか？
理想的な状況にするために、何をしますか？
※「いつまでに」を意識する
①指定避難所
②指定避難所以外の
避難所
（公民
など）
③在宅、車中泊
ドアレが
物資が
物資の
ダンボールベッド
有
こころのケア
こころのケア班
専門家
への
つなぎ
支援
つなぎ


災害ケースマネジメント　アセスメント実践ワークショップ　ケース例（初見版）
ケース１（避難所・高齢男性）
体育館の避難所で、70 代の男性が毛布の上に座っている。周囲に話しかける様子はなく、顔色も優れない。話しかけると「犬が心配で毎日家に通ってる」と語り、薬をなくしたことや眠れないこともぽつぽつ話す。手続きの話になると「難しくてよく分からない」と困惑した様子を見せる。
ケース２（自宅前・松葉杖の妻）
玄関先に松葉杖をついた 30 代の女性が出てくる。足元は不安定で、表情にも疲れがにじむ。声をかけると「子どもがずっと慣れなくて…」と語り、家の中は片付いておらず、も壊れているという。夫は仕事が止まっていて、支援制よく分からないまま時間が過ぎているとのこと。
ース３（保健室前・高齢母）
保健室入口で、高齢の母親が調査員に応対。中には息子がうずくまっており、母親は常に気を張っている様子 1
子が目に敏感で…」と語り、通院もままならず、手
むぎ茶
3
3
5
5

ワークショップでの検討内容と「つなぐチーム」との関係

災害・被害想定

検討委員会協議に反映

地域受援力向上研修に反映

第1部（発災3日目：支援体制初動期）

目標：ガバナンスの構築
- ・状況予測、支援目標の設定
- ・情報収集・共有体制の構築

検討内容

①被災者（避難拠点設置）
- ・救助・救命
- ・多様な避難先への避難
- ・

②支援者（支援拠点設置）
- ・支援者混在、要調整状態
- ・

③災害中間支援組織
- ・セクター間の調整
- ・情報共有会議の開催

「つなぐチーム」
- ・状況予想（1週間程度）
- ・全体方針決定
- ・セクター間調整

第2部（発災7日目：支援体制確立期）

目標：ガバナンスの維持・継続
- ・分野別支援体制の構築
- ・情報（定量・定性）の把握・共有
- ・**災害ケースマネジメント体制の構築**
- ・個人情報共有体制の検討・構築

検討内容

①被災者（避難拠点運営）
- ・生活環境の悪化懸念
- ・避難先の要把握
- ・

②支援者（支援拠点運営）
- ・分野別支援体制確立
- ・分野別コーディネーターによる調整

③災害中間支援組織
- ・セクター間の調整
- ・情報共有会議の開催

「つなぐチーム」
- ・状況予想（1か月程度）
- ・全体方針決定
- ・進捗管理
- ・セクター間調整

第3部（発災7日目：ケース検討）

目標：災害ケースマネジメント実施
- ・分野別支援の検討と集約化
- ・ワンストップ窓口の必要性
- ・専門職による支援

検討内容

個別ケースの検討

①指定避難所避難ケース
- ・
- ・

②在宅避難ケース
- ・
- ・

「つなぐチーム」
- ・「支え合い」体制構築を目標
- ・

実働訓練（実証実験）で試行

「一人一人を尊重する」信州型被災者支援システム

（人権尊重型被災者支援システム）

災害時において、すべての被災者の人間としての尊厳と基本的人権を最大限に尊重し、誰ひとり取り残さない支援体制を構築することを目的とした新しい支援モデル

「つなぐ人」・「つなぐチーム」とは？

長野県域における「つなぐ人」戦略

１　組織の壁を超えるバウンダリースパナー「つなぐ人」の創出

２　「つなぐ人」を組織化し、官民融合の「つなぐチーム」を創設

３　「つなぐチーム」による被災者支援を制度化

※仕組み（システム）とすることで、人に頼る現状（属人）から脱却し、
　常に一定の被災者支援のための機能を保持する環境を創り出す

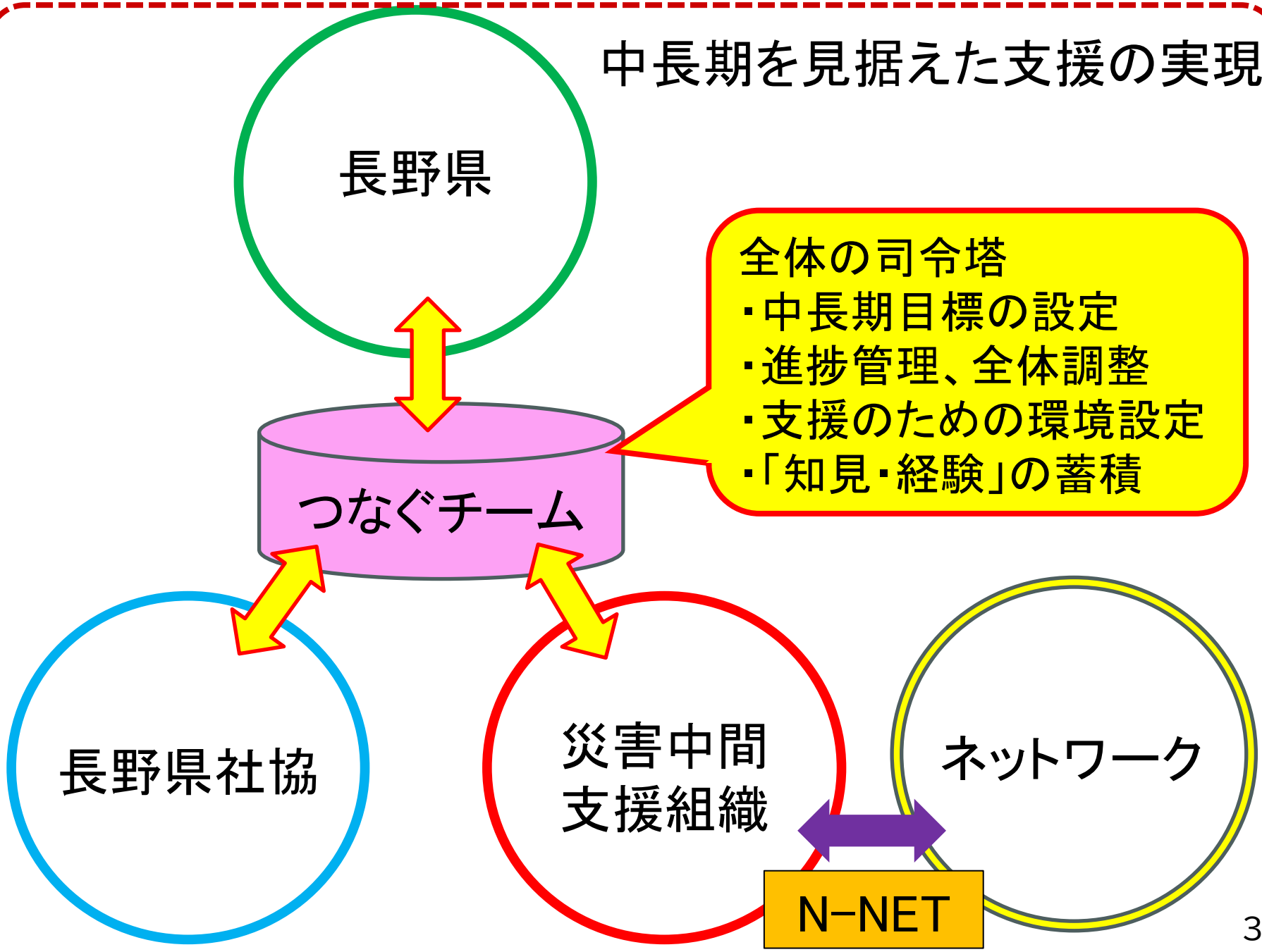
○ 「つなぐチーム」の編成

１ 「つなぐ人」の選出
- 行政（都道府県）
- 社協（都道府県社協）
- 災害中間支援組織

２ 機能
- 蓄積された経験を共有することで効果を発揮
- つなぐ人をチームとすることで互いの欠点を補完
- 機能として、常に知見を蓄積

３ つなぐ人の条件
- 地域を知っている
- 組織を知っている
- 災害を知っている
- 場づくりができる

中長期を見据えた支援の実現



事業の取組状況
（2026年6月26日第1回報告会からの変更を朱書き表示）

事業1:「人権尊重型被災者支援システムの構築」取組状況

①有識者協議

第1回:4月17日(金)15:30～17:30(ハイブリッド)

第2回:5月29日(金)17:00～19:00(オンライン)

第3回:10月26日(月)13:30～15:00(オンライン)

※事業全体の基本構想構築

②「支援の標準化検討委員会」大阪公立大学　菅野先生

第1回:7月17日(金)10:00～12:00(オンライン)

第2回:8月20日(木)13:00～15:00(対面:合同開催)

第3回:9月17日(木)10:00～12:00(オンライン)

③「支援の集約化検討委員会」兵庫県立大学　松川先生

第1回:7月14日(火)15:00～17:00(オンライン)

第2回:8月20日(木)13:00～15:00(対面:合同開催)

第3回:9月15日(火)15:00～17:00(オンライン)

事業1:「人権尊重型被災者支援システムの構築」取組状況

④分野別支援検討

ア　キッチンカーによる食と栄養の支援

・「ながの移動販売つなぎ局」との協議など

イ　ジェンダー視点による支援

・検討委員会の設置、協議

ウ　要配慮者への支援

・長野県社会福祉協議会への業務委託
　災害ケースマネジメントへの取組など

・特に配慮を要する子どもへの支援検討

⑤災害ケースマネジメントの演習

8月20日（木）13:30～15:30（ハイブリッド）

事業2:「地域の受援体制の整備」取組状況

①上伊那災害時支援ネットワーク事務局等との協議

第1回:5月26日(火)9:00～11:00(対面:伊那谷財団)

第2回:6月12日(金)9:00～10:00(オンライン:事務局)

第3回:6月23日(火)11:00～12:00(対面:事務局)

第4回:7月28日(火)14:30～16:30(対面:事務局)

第5回:8月10日(月)16:00～17:00(対面:伊那谷財団)

②地域企業等との協議

5月29日(金)企業との協議　※　(株)パネックス長野工場(伊那市)

③地域受援力向上研修

6月18日(木)研修考案者との意見交換

※AIを活用した研修内容のレクチャーなど

④地域団体との連携

6月13日(土)みのわBOSAIネットワーク(上伊那郡箕輪町)

※ペット防災イベントへの参加

事業３:「多分野が交差する『場』での実践」取組状況

①図上訓練

9月1日（火）13:30～16:30

長野県長野市

②実働訓練

1月22日（金）～23日（土）

長野県長野市

③関連団体等との協議

6月4日（木）　実働訓練支援拠点:（株）シェルターワン

10月21日（水）　実働訓練支援拠点:（株）シェルターワン、つなぎ局

2026年度実働訓練　第1回実行委員会（キックオフミーティング）

１　日時

2026年10月23日（金）　13：30～15：30

２　方法（オンライン：zoom）

https://us02web.zoom.us/j/83356862548?pwd=W1IbhofQGllK0K1rYfQsqlyOKMkXez.1

ミーティングID: 833 5686 2548

パスコード: 348268

３　内容

（1）実働訓練実施の目的など

（2）訓練内容

（3）実行委員会の役割と予定

（4）その他